

留学フェア2019 10月9日(水)開催

留学や海外体験を希望する方の情報収集の場として、今年も留学フェアを実施します。どなたでも自由に参加できます。また、10月1日から8日まで、天野貞祐記念館4階 ICZで各言語圏への留学体験等を日替わりで紹介するプレ・ウィークイベントも実施します。



■獨協大学留学フェア2019

日時：10月9日(水) 12:50～17:00

場所：学生センター1階 雄飛ホール

内容：①ミニセミナー(国別の留学事情や語学試験説明、個人留学、奨学金、就職等)

②個別相談ブース(参加協力団体、留学経験者、海外協定校からの留学生、学内関連部署)

③関連資料配布コーナー

参加：予約不要、入退場自由

※タイムテーブルや参加団体など、詳細は国際交流センターHP参照

■プレ・ウィークイベント「世界が舞台! ～ Make It Happen! ～」

本学の留学制度のほか、様々な留学方法や体験談を、言語圏ごとに日替わりで紹介します。会場は天野貞祐記念館4階 ICZ Room 2です。

英語圏	10月1日(火)	12:45～13:25
スペイン語圏	10月2日(水)	12:45～13:25
ドイツ語圏	10月3日(木)	12:45～13:25
フランス語圏	10月4日(金)	12:45～13:25
中国語圏	10月7日(月)	12:45～13:25
韓国語	10月8日(火)	12:45～13:25

獨協大学英语教育研究会(DUETA) 第9回ワークショップを開催

7月13日、東棟E-311教室において、獨協大学英语教育研究会(DUETA)による第9回ワークショップが開催された。演題は「『書く』ことを通して『書ける』ようになる? ―コミュニケーションを支える文法の指導―」。

講師の高田智子氏(明海大学外国語学部教授)は、授業においてインプットが圧倒的に不足しているために予測文法が育たないことを指摘し、文法項目や語彙などの言語材料と使用する場面や伝えようとする内容と関連付けた言語活動を効果的に結び付けることの重要性を示した。参加者は言語活動において実際にどのような支援が可能かを話し合い、具体的な書く活動例を体験した。ワークショップには中高の教員、本学在学学生・卒業生を含めて、学内外から約50名が参加した。

■獨協大学英语教育研究会(Dokkyo University English Teaching Association: DUETA)は、英語教育に携わっている本学の卒業生、または将来携わりたいと考えている本学の学生を始め、広く一般に英語教育に携わっている人、あるいは英語教育に関心のある人を対象とし、互いに交流を深めることを目的として活動している。



国際環境経済学科・環境共生研究所共催 Earth Week Dokkyo 2019 ～Summer～開催

6月24日から29日にかけて、学内各所で環境週間「Earth Week Dokkyo 2019 ～Summer～」が開催された。このイベントは、地球環境保全に関する啓発活動を実施し、持続可能な社会を実現することを目的として2016年12月から半期に1度実施している。

6月26日には、講演・討論会「フクシマの未来を考える～大学生のうちに知っておくべきこと～」が開催され、ゲストとして、伊達市出身で福島県や埼玉県小川町などでアンバサダーを務めるタレントの長沢裕氏が登場。福島県で「大学生の力を活用した集落復興支援事業」に参加している学生らと、パネルディスカッションなどを行った。

その他、期間中には、ラベンダースティック作りや、福島県産そば粉と草加市産の野菜等を使った手作りピザ配布、西棟省エネ・創エネ設備のエコキャンパスツアー、緑と小さなマルシェなど数多くのイベントが行われた。(学生記者/伊藤・川上・深見)



法学部 鈴木淳一ゼミ「模擬国際会議」開催

法学部の鈴木淳一ゼミは、8月4日から6日の3日間、メイプルイン幕張(千葉県)で模擬国際会議を開催した。模擬国際会議は、現実の国際問題について、担当国を決めて学生が政策を立案して交渉を行うもので、本年度で19回目となる。

今回のテーマは「文明間接触と植民地責任」。旧植民地の人々の中には、植民地支配を行っていた欧米諸国の責任を問責する人たちがおり、いくつかの旧宗主国も自らの責任を認めて謝罪や補償を行っている。しかし、現在の国際法を過去に遡らせて責任を問うことは様々な法的問題を生じさせる。本会議は、植民地責任をめぐる世界の対立の解決を目指したもので、真剣な交渉の結果、条約案が採択された。

会議を見学した卒業生の一人は「学生時代の苦労を思い出した。模擬国際会議で習得した対人能力は、就職活動や就職後の実務でも役立つ」とコメントした。

